

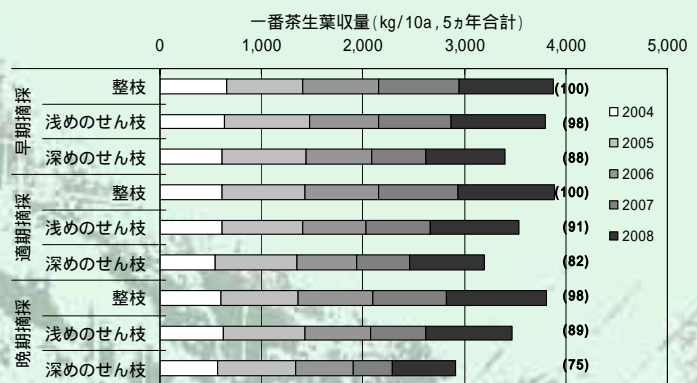
二番茶後せん枝の連年実施が 翌年一番茶に及ぼす影響

[研究のねらい]

- ・二番茶後に葉層を取り除くせん枝は、樹高上昇抑制や防除回数の低減等のメリットがあることから、近年、乗用型導入茶園を中心に実施される茶園が増加傾向にあるが、せん枝の連年実施の影響は明らかになっていない。
- ・そこで本課題では、二番茶の摘採時期と整せん枝の深さを組み合わせ、5年間同一の処理を継続することにより、せん枝の連年実施が茶の収量及び品質に及ぼす影響を明らかにする。

[研究の成果]

- ・二番茶後の整せん枝が深いほど翌年の一番茶収量が少ない。また、二番茶の摘採時期の影響は整せん枝の深さほど大きくないものの、二番茶を晩期(多収)摘採してから深めのせん枝をした場合に減収程度が大きくなる(図1)。
- ・連年実施4、5年目において、秋整枝後の株面構成(芽数、着葉程度など)と翌年の一番茶収量との相関は高く(図2)、深めのせん枝を連年実施した茶園では、せん枝後の再生芽の生育や秋の葉層の確保が十分に行われず、翌年一番茶の収量低下を招く。



()内は早期摘採・整枝区を100とした場合の各区の割合

注) 整枝: 二番茶摘採面(前年秋整枝位置+2cm)で整枝
浅めのせん枝: 前年秋整枝位置 - 1cm
深めのせん枝: 前年秋整枝位置 - 4cm

図1 二番茶摘採時期と整せん枝の深さが翌年一番茶の収量に及ぼす影響



写真 深めのせん枝処理後の枝条

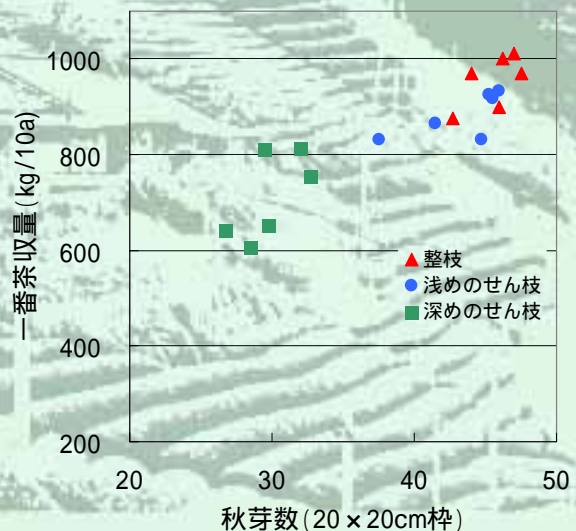


図2 一番茶収量と前年秋の株面芽数との関係 (5年目)